

第2回 昭島市まちづくり委員会 議事要旨

日 時：令和元年 11 月 19 日（火）午後 7 時～9 時
会 場：市役所 3 階庁議室

【出席委員】

紅林由紀子委員、杉田一男委員、鈴木一昭委員、細谷訓之副委員長、谷部英治委員
荒井和誠委員、岩佐昌明委員、安部隆士委員、小田部恵委員、於保美幸委員、
立川慎一委員、中尾一博委員

【欠席委員】

柳沢厚委員長、砂金朋子委員

【事務局】

都市計画部長 後藤真紀子、都市計画課長 岩波聡、
都市計画係 小林千春、荒井哲朗
(株)オフィス・コラボ 樋渡、中井

【事前配布資料】

- ☐ 昭島市都市計画マスタープラン策定検討資料 基礎資料（以下、基礎資料）
- ☐ 昭島市都市計画マスタープラン策定検討資料 課題の総括（以下、課題の総括）
- ☐ 昭島市都市計画マスタープラン策定検討資料 将来都市構造（以下、将来都市構造）
- ☐ 昭島市市民意識調査報告書（概要版）

【当日配布資料】

- ☐ 議事次第
- ☐ 昭島市まちづくり委員会委員名簿
- ☐ 昭島市市民意識調査報告書
- ☐ 資料 1 都市計画マスタープラン 今回の検討箇所（以下、資料 1）
- ☐ 資料 2 昭島市基本構想素案（以下、資料 2）
- ☐ 資料 3 基本計画の骨子（以下、資料 3）

【傍聴者】

なし

1. 開会

細谷副委員長：4月1日付で山崎かすみ委員に代わって岩佐昌明委員が就任した。

事務局：事前配布および当日配布資料の確認が行われた。

2. 議題

(1) 市民意識調査報告書について（報告）

(2) 次期総合基本計画の策定状況について（報告）

○事務局より議題（1）と（2）を続けて説明した。

資料は（1）については昭島市市民意識調査報告書（概要版）を、（2）については、資料1・2・3を使用した。

○細谷副委員長

ご質問等はあるか。

○事務局

資料説明の補足として、総合基本計画の最上位に当たる基本構想素案については、都市計画マスタープラン（以下、都市マス）と同時並行で検討を進めているため、未確定な部分が多いことはご承知おきいただきたい。11月11日の総合基本計画審議会において、資料2について検討したが、資料2のP4【5まちづくりの視点】について、「心豊かに過ごせるまちづくり」や「安全・安心に住み続けられるまちづくり」という視点も必要ではないかという意見も出た。これについては、現在どう組み入れるか検討中である。

○細谷副委員長

資料2のP5施策の大綱で説明があった「（1）安全で安心して暮らせるまち」、「（5）環境負荷を低減し、水と緑の自然環境を守るまち」、「（6）快適で利便性に富んだまち」、「（7）生活を支え、活力を生み出すまち」が、都市マスに関わってくるという理解でよいか。

○事務局

記載されている他の施策の大綱についても関連する部分はあるが、今回は特に大きく関わる項目を抜粋して説明した。

○細谷副委員長

資料2のP5以降はこれから変更する可能性もあるものという理解でよいか。

○事務局

そのとおり。

(3) 都市計画マスタープラン基礎資料について

(4) 都市計画マスタープラン現状と課題について

○事務局より議題（3）と（4）を続けて説明した。資料は、（3）は基礎資料を、（4）は課題の総括を使用した。

○細谷副委員長

ご質問・ご所見等はあるか。

○谷部委員

基礎資料P1について、市の面積の単位は、haではなくkm²ではないか。

○事務局

そのとおり、17.34 km²に訂正する。

○中尾委員

基礎資料 P16 の【②農業】について、専業農家の値が、平成 27 年に 25 戸に急増している理由が分かるか。他の数値から見ると、急に農業振興が進んだわけではないと思う。

○細谷副委員長

兼業が減少して、専業になった可能性はあるか。

○事務局

一つの理由としては、兼業だった方が勤め先を退職されて専業になった可能性がある。もし理由を確認できれば、後日報告する。

○安部委員

基礎資料 P37 のハザードマップに関連して、市の近くに横田基地があり、航空機騒音というハザードを発生させていると考えるが、マップとしても航空機騒音をハザードの 1 つとして認識できるようにした方がいいのではないか。文章だけだと想像が付きにくいですが、住んでいる人間からすれば、横田基地はまさにハザードのソースになっている。

○事務局

基礎資料 P37 のハザードの意味合いは、洪水等の直接被害を受ける災害のことである。騒音としては道路沿線などでもあると考えるが、それは環境評価などの側面から捉えられるのではないか。もしハザードということであれば、航空機墜落等の危険は考えられるが、これを含むと交通事故多発区域を入れるかどうかなどの検討にもなり、入れ込むことは難しいのではないか。

○安部委員

ハザードとして認識しても、それをどう入れ込むかは難しいと思うが、航空機騒音の明記は必要だと考える。

○事務局

基礎資料 P37 のハザードマップは、地震や洪水等の自然災害が起こった際にどこが危険かを示したものである。騒音についての認識を共有するという考えは理解できるので、ご意見については関連部署に報告する。

○細谷副委員長

都市マスにハザードマップを掲載するのか。

○事務局

ハザードマップを都市マスに直接掲載するわけではないが、大雨などの自然災害時に、多摩川等があふれる可能性のある箇所をリスクとして認識することも、まちづくりを考える上では必要と考えている。

○於保委員

移住してくる方は航空機の通るルートが気になる場所だと考えるので、騒音に関する明記はご検討いただければと思う。

○事務局

騒音については、防衛省が別途作成している資料がある。それを 1 枚にするかどうかというのは、なかなか難しさがある。関連部署にご意見があったことは報告する。

○立川委員

都市マスの計画期間について、総合基本計画と同じか。また基礎資料 P12 の人口推計では、この

先 1 万人、2 万人の減少が推計されているが、都市基盤としては今と同じ基盤の中で、都市施設として何を残すべきかなどの視点が、課題の中には載っていない気がする。国が考えるべきことでもあるが、土地利用だけを考えるのではなく、人口減少についての専門的な推計もいただけるとありがたい。基盤整備については大きく変更することは難しいため、人口減少の影響について教えていただきたい。

○事務局

計画期間について、都市マスは 20 年間で、計画期間内でも適宜見直しを行う。総合基本計画については、基本構想は 10 年間。基本計画は 5 年ごとに見直しを行う。都市マスが 20 年間である理由について、ハード面は一定の計画期間と工事期間を要するため、見直しを視野に入れた長期間となっている。

人口推計については、市の総合戦略において人口減少を抑えるための施策を検討しているところである。都市マスでは、総合戦略の中の人口推計を使用してまちづくりを検討していくこととなっており、人口減少を見据えた中で、今までのような右肩上がりのプランではなく、どう維持していくかといった視点も持つプランになっていくと考えている。また、公共施設については、現在、公共施設等総合管理計画を企画政策課で策定中である。

○事務局

将来人口については、基礎資料 P12 に記載しているものは平成 27 年の推計であり、現在総合基本計画の検討の中で時点修正を行っている。ただし、基本的な傾向はそれほど大きくは変わらないと考える。

公共施設に関しては、人口減少で税収が減る中でどう施設を維持するかは、非常に大きな視点であると考えている。公共施設等総合管理計画の推定では、市の財源不足は今後 20 年間で 190 億円となっている。施設の統合や廃止等を検討しながら、どう削減していくかが課題であり、公共施設等総合管理計画の検討状況も分かり次第ご報告していきたい。また、課題の総括 P5 の【都市文化や交流】に「時代に合った整備・維持・活用の検討が必要」と記載しているのも、そのようなニュアンスを含んだものである。

○立川委員

都市マスには夢がないといけない。必要・不必要も大事だが、夢の部分として、発展性がある昭和記念公園の付近等について、この都市マスでどこまで今までにない見直しの考え方を出していけるかが大事だと思う。

○事務局

市としても夢と現実を見ながらやっていくべきと考えている。行政だけで全てやるのは無理なので、この都市マスは市民の皆さんと共有しながら、同じ方向を見てまちづくりを進めていきたい。

○荒井委員

人口減少に関連して、課題の総括 P4 の【生活環境】ごみ処理について、「将来を見据え」とあるが、人口が減るとごみも減り、ごみ処理施設にも年々余剰が出て、そういったところを民間活用することなども考えられる。ごみについても「人口減少も見据えて」といったニュアンスを入れるといいと考える。

○小田部委員

これから社会として多様性が出てくる中で、市内には工場等で働く外国の方も多くいて、外国人の人数などの資料や、障害福祉の観点からみれば、身体障害者手帳を所持している方の割合などの

資料もあると、そういった視点を持ったまちづくりの検討ができると考える。

○事務局

外国人比率や、障害者割合等について、ご提示できる資料があれば、準備する。

○於保委員

街並み景観については、この都市マスと関連するのか。

○事務局

市には景観計画はないが、地区計画の中では、色彩規制などその地区にふさわしいまちづくりを考えており、これについては今後とも考えていきたい。それとともに、昭島らしいまち、市民の皆さんの心の中にあるような景観を維持していけるようなまちづくりも、市街地整備の中で取り込んでいければと考えている。

今回整理した都市マスの課題の中では、【自然環境】や【都市文化や交流】の中で景観に関連する課題も捉えているところであり、景観の視点がないわけではない。

○立川委員

基礎資料 P32 について、都市計画道路の事業費の規模と市の負担割合は出せないか。

○事務局

市施工で、現在施工中の事業や最近終了した事業については大まかにお出しできるが、それ以外のものは難しいと考える。

○立川委員

ストックマネジメントを今後考える上で、行政の財政負担の状況を検討する必要があるのではないかと考えている。

○事務局

都市計画道路については、都市計画決定してから長年整備が実現しないという問題もあり、都市計画道路の整備方針として、10 年に 1 回程度、優先整備路線をどこにするかを東京都と区市町で検討している。それ以外に、昨年度から、優先整備路線以外で整備の必要性がある道路についても、代替路線の可能性などを含めて計画の簡素化を検討するなど、整備の実現に向けて整備費用や住民の負担を減らすことを東京都と区市町で検討している。その基本方針が固まり次第、お知らせしたい。

○紅林委員

課題の総括 P3 に、児童遊園も含めた市民 1 人当たりの公園面積が 10.22 m²とあるが、基礎資料 P35 の公園・緑地のマップに児童遊園も入れてはどうか。都市計画公園の分布だけでは、公園空白地域が随分あるように見えるので、児童遊園も入れたバランスを見たい。

○事務局

補足して、提示したい。ちなみに、市民 1 人当たりの公園面積 10.22 m²には、玉川上水沿いの緑道面積も含まれている。

○細谷副委員長

人口減少の流れはあるが、全国的には人口が増えている地域もあり、都市マスのベースは、その中でどう魅力あるまちをつくっていくかであると考えている。そのあたりをこの会議で協議していきたい。

(5) 都市計画マスタープラン将来都市構造について

○事務局より議題（５）について、将来都市構造を使用して説明した。

○細谷副委員長

ご質問・ご所見等はあるか

○安部委員

総合基本計画の基本構想の中に「スポーツ、文化・芸術の振興を図るまち」ということが掲げられており、そういった視点で見ると、例えば多摩川沿いのサイクリングロードをもっと明確に発信していくことも考えられる。より充実させていくという考え方もあると思うが、全く触れられていないので残念である。

○事務局

多摩川沿いのサイクリングロードについては、将来都市構造 P9【ゾーン】の「水と緑を守り育てるゾーン」にレクリエーションゾーンとして位置付けている。

○安部委員

もう少し明確に打ち出してもいいのではないか。せっかく良いものがあるのだから、もっと充実させていくという方向性が見えるといいと思う。

○事務局

自転車は健康という視点からも注目されており、基礎資料 P21 の水色が自転車走行レーンの表示であるが、立川基地跡地以外は自転車のナビマーク程度で、なかなかネットワークとしてつながらない。多摩川沿いのサイクリングロードについては河川敷の一部であり、管理も含めた位置付けについてどう検討していくかは難しいところもあるが、健康寿命を考える上でも、歩行や自転車の視点は重要であると考えている。

○安部委員

確かに、昭和記念公園の西側は整備されているので、それが広がっていけばいいと考える。

○事務局

新設の道路はやりやすいが、既存の道路だと歩道や車道をどうするかなど、なかなか難しい。課題は多いが、できることはやっていきたい。

○中尾委員

拠点やゾーンの書きぶりが分かりにくく、夢が感じられない。特に、水と緑の骨格とゾーンがどうつながるのか分かりにくい。現在の昭島市の都市構造を表しただけのように思える。市民と行政の「こうしていきたい」という楽しい夢が見えてこない。

例えば、医療と病気予防センターのような拠点などを表す必要はないのか。医療センターまでできるか分からないが、あいぼっくのように市民の健康を保つためのセンターと、病気の方であればワンストップで対応できるようなセンターがあればと思う。また、市民が憩うというのがこれからの時流であるが、様々な調査などでも家族のコミュニケーションが減ってきており、近隣の方とコミュニケーションを取るのに、集う場所への要望が強いという印象がある。それなら、スポーツで集う拠点、文化・芸術で集う拠点なども都市構造に入ってきてもいいのではないか。誰にでも分かりやすいプラン、なおかつ、市民のニーズに応じたプランにしたいと考える。

○事務局

都市マスで示す都市構造は、まちを構成するための基礎となる骨格部分であり、全てを載せてしまふとかえって分かりづらいのではないかと考えている。この骨格を把握した上で、次の展開として、具体的な施設などは地域別構想を検討する中で考えていくこともできるので、将来都市構造に

については、もう少し大きなものであるとご理解いただきたい。

○中尾委員

ここで示しているのは、市の現状の骨格であり、ここからどうやって発展させていくかという構成にした方がいいのではないか。

○事務局

お示ししているのは、将来の都市構造である。地域別構想の中で現況と将来を重ね図のように表現することもあるかもしれないが、市全域の中で表現するのは分かりにくいと考えている。

○中尾委員

そうであるなら、この都市構造は意思のあるプランではなく、「昭島市の骨格」、「昭島市の基本構造」といった表題になるのではないか。

○事務局

ここで示している都市構造は将来の都市構造であって、記載内容としては、現状である程度できている部分もあるし、将来的にまちとして発展させていくためにどういう拠点等にしていくべきかということも記載している。さらに具体的な施設等については、骨格ではなく、地域別構想の中で位置付け等を考えていきたい。

○中尾委員

次期の都市マスも、現行の形を踏襲して、施設等は地域別構想の中で展開していくということか。

○事務局

その通り。

○細谷副委員長

私の認識としては、中尾委員が言われたようなまちづくりの構想は、冒頭で説明のあった総合基本計画の中で論じられるものであり、その基盤となるものが、都市マスの都市構造としてここで示されたものと考えている。

○荒井委員

滝山丘陵自体は緑の拠点でよいが、近隣には事業所や資材置き場などもある。都市マスの検討にあたっては、ここで示されているように水と緑を守るゾーンとするのか、あるいは一部は環境に配慮した生産・流通ゾーンに位置付けられるのではないかとも思うが、市としてはどう考えているのか。

○事務局

滝山丘陵は市街化調整区域であり、開発したいという事業所もこれまでもあったが、都市マスで緑を守るゾーンとして設定しているために開発が抑制されてきたという側面もある。水と緑よりも活発な都市活動のためであれば、生産・流通ゾーンとして設定することも考えられるが、東京都など他の計画も勘案して水と緑を守り育てるゾーンとしている。

○立川委員

P1にあるコンパクトなまちづくりとは、昭島市でどんなことが可能なのか。また、人を呼び込むまちづくりが必要だと思うが、P2にある昭島駅周辺の回遊性をさらに高めるとは、具体的にはどんなことか。

○事務局

人口減少・高齢化が進んでくると、施設の集約化・複合化等を含め、いろいろな意味のコンパクトがあると考えている。

昭島駅周辺の回遊性については、散策が楽しくなる歩行者ネットワークづくりを進めるとともに、青梅線の北側に図書館や郷土資料室などを複合化した教育福祉総合センター（アキシマエンス）が完成したら、青梅線の南側にも人が流れるような仕組みができるのではないかと考えている。

○立川委員

回遊性という視点からは、八王子村山線から昭島駅までの青梅線を高架にすると、江戸街道から北側の施設まで、自転車や歩行で行き来できるようになる。高架下に自転車置き場・駐車場など、公共の空間を作っていくこともできるし、公共バス網も南北に分ける必要がなくなる。今後、区画整理事業等の手法で新たに用地を確保していくことは難しくなる。鉄道高架の問題であれば、交渉の相手もはっきりしており、市の負担も結果的には少なく、公共用地を創出できる。都市の基盤整備を考える計画であるなら、夢かもしれないがそのようなことを念頭においた発想をしてもいいのかなと思う。

○事務局

中央線の連続立体は立川までとなっており、確かに高架下には店舗や駐輪場等が入っている。ただし、東中神駅東側の踏切については、現状では鉄道を上げるのではなく、道路をアンダーパスで通す予定となっており、少なくとも20年以内の実現化は難しいと判断している。

○立川委員

都市マスでそういう言い方ができれば、もっと夢が広がるし、公共用地もできる。将来的に電車やバスのルートを充実させることは、重要なことである。鉄道の高架については連続立体事業の他にも単独立体事業という手法もあり、高架下について交通の結節点や駅周辺の回遊性の実現のための様々な活用が考えられる。他の都市計画事業で行うより市の負担も少なくて済み、その余った財源を公共施設や都市計画道路の整備などの別の事業に活用することもできる。

昭和記念公園は使用が固定され、財源を生まない土地であるが、その裏返しとして、今後は昭島市の顔を創るために、また昭島市に人を呼び込むために、その材料づくりを検討することが必要と思われる。

○細谷副委員長

私も昭島に住んでいるが、今のお話は目からうろこのような話である。確かに市の真ん中に鉄道が走っているので、南北に分断されている。

○立川委員

私はコンパクトシティというのは、そういう意味合いで考えたいと思っている。

○細谷副委員長

貴重なご意見に感謝する。

○於保委員

玉川上水周辺の緑の拠点については、西武立川駅まで伸びているが、緑のゾーンについては西武立川駅の西側までとなっている。もう少し図の緑色が伸びるのではないかな。美しい水と緑があり、学生などの学び場にもなっている。

○事務局

基本的に玉川上水については緑の拠点として捉えている。西武立川駅の先まで行くと立川市に入るが、ゾーンについても検討する。

○於保委員

江戸街道の朝日町交差点について、歩道橋があって見通しが悪い。歩行者、運転手にとって見え

づらくて危ないと感じている。歩道橋については無くしていく方向であると思うが、朝日町交差点についても信号に替えるなどの予定はあるのか。

○事務局

歩道橋については、横断歩道など代替の施設があるところは無くす方向で取り組んでいる。朝日町交差点は、東側の南北方向の横断歩道を設定していないため、歩行者の安全な横断のために必要という判断で残っていると考えられる。ご意見は関連部署に伝える。

○細谷副委員長

本日議論したところが、これからの基本になる部分である。全体としてご了承いただきたい。

3. その他

○事務局

次回のまちづくり委員会は令和2年3月頃を予定している。「まちづくりの方針について」、「地域別構想に向けた現状分析」を行う予定である。開催通知や資料は事前に送付させていただき、ご協議いただく。不明な点は事務局まで。

4. 閉会

以上